

# 日韓移動表現における名詞の場所性

## —日本語の「に行く」と韓国語の「에 가다」—

申 貞恩

### 1. はじめに

日韓両言語において、「～に行った。」「～に帰った。」「～に着いた。」などの移動表現の場合、移動の行き先となる二格名詞句の場所性が文の容認度を左右する。(1a)は場所性を持つ名詞「学校」を行き先とする場合、(1b)は場所性を持たない名詞「花瓶」を行き先とする場合である。(2a)、(2b)は(1a)、(1b)に対応する韓国語である。

- (1) a. 花子は学校に行った。  
b. \*花子は花瓶に行った。  
(2) a. 영화는 학교에 갔다.  
b. \*영화는 꽃병에 갔다.

両言語とも、場所性を持つ「学校」「학교」を行き先とする場合は自然であるが、場所性を持たない「花瓶」「꽃병」を行き先とする場合は不自然である。

場所性を持たない名詞（以下、非場所名詞）を行き先とする際、日本語は形式名詞「ところ」を付けて場所化し、韓国語は方向を表す助詞「(으)로」<sup>1)</sup>を使う。(3)は、(1b)、(2b)に対応する自然な移動表現である。

- (3) a. 花子は花瓶のところに行った。  
b. 영화는 꽃병으로 갔다.

日本語における場所化は、非場所名詞に対する手続きで、すでに場所性を持つ名詞（以下、場所名詞）には「ところ」が付

かない。しかし、韓国語は場所名詞であっても、助詞「(으)로」と結び付けられる。

- (4) a. \*花子は学校のところに行った。  
b. 영화는 학교로 갔다.

以上により、両言語とも場所名詞と非場所名詞を区別しているものの、両言語において名詞の場所性による移動表現の形式が異なっている。

また、両言語間で場所名詞と非場所名詞の区別が常に一致するわけではない。(5a)、(5b)は日本語における移動表現、(6a)、(6b)は(5a)、(5b)に対応する韓国語の移動表現である。

- (5) a. \*花子は花瓶に行った。  
b. \*花子は脚立に行った。  
(6) a. \*영화는 꽃병에 갔다.  
b. 영화는 사다리에 갔다

「花瓶」と「脚立」を行き先とする日本語は両方とも不自然である。しかし、韓国語は「꽃병（花瓶）」は不自然であるが、「사다리（脚立）」はほぼ自然である。つまり、日本語は「花瓶」と「脚立」を非場所名詞として捉えているが、韓国語は「사다리（脚立）」を非場所名詞として捉えていない。このように、両言語とも場所名詞と非場所名詞を区別しつつ、その区別にはずれが生じる。

そこで、本稿は移動表現のうち、「行く」と結び付く二格名詞句について、名詞の場所性における両言語間のずれを明らか

にした上で、その要因を探ることを目的とする。

移動を表す動詞は、出発点から到着点に向かって移動するという共通の意味を持ちながら、動詞それぞれに固有の意味特性を持つ。移動構文の中で、名詞の場所性を探る際、このような動詞の意味特性は新たな要因となり、名詞の場所性を左右する恐れがある。そこで、本稿では、移動表現全般について考える前段階として、移動以外の付加的な意味特性がもっとも少ない「行く」について論じる。なお、必ず直示的な意味を伴う「来る」と異なり、非直示的な用法も持つ「行く」の方がより無標と言える。

## 2. 先行研究

### 2.1 日韓移動表現

日韓移動表現の研究として薛 (1997) と全 (2007) がある。薛 (1997) は、日本語は非場所名詞を行き先として捉える場合、場所を表わす形式名詞を加えなければならないが、韓国語は日本語のように非場所名詞に形式名詞を加えることも可能であるが、人名詞の場合、場所性を持つ格形式「에게／한테」<sup>2)</sup> が後続することによって、移動表現が成立すると指摘している。

全 (2007) も薛 (1997) と同じく日本語における場所化の手続きと、韓国語の格形式について述べている。さらに、場所化の揺れがあり、着点を表すモノ名詞が、場所化せずに直接移動動詞と結びつく例も挙げている。しかし、指摘に留まってその理由については考察してない。全 (2007) が挙げている例の一部を (7) から (9) に示す。

(7) そのまま窓へ行って、女が掻き登って来たというあたりを見下すと、灌木類の茂りの裾に熊笹が猛々しく広がっていた。(雪国)

(8) ぐいと、冷蔵庫のドアをあけ、ビールを一本ぶらさげた栄介は、ソファにきてすわった。(残像)

(9) 準次は何かから解放されたように、自分のベッドへ帰った。(神の道化師)

表1に全 (2007) が日韓移動表現の特徴として提示している表の一部を示す。

表1 日本語と韓国語の移動表現

| 名詞 | ～へ／～に行く類                                    |
|----|---------------------------------------------|
| 場所 | 日) 場所化する必要はない<br>韓) ～에 /～(으)로               |
| 人  | 日) 必ず場所化しなければならない<br>韓) ～에게(로)/～한테(로)/～께(로) |
| モノ | 日) 場所化してもしなくても良い<br>韓) ～(으)로 /～에            |

[全 (2007 : 69) 筆者により修正]

従来の研究では、日本語と韓国語の移動表現における形式的な違い (日本語は形式名詞を付けて場所化するが、韓国語は助詞を入れ替える) について指摘しているが、名詞の場所性における言語間のずれについては管見の限り研究されていない。

### 2.2 名詞の場所性判断

寺村 (1968)、田窪 (1984) は、名詞の場所性は名詞それ自身の性質として持つという立場から場所名詞と非場所名詞を区別している。

寺村 (1968) は、以下の枠を設けて、そこに入る名詞は場所名詞であると述べている。

a. ココハー デス

b.一へ行ク(来ル)<sup>3)</sup>

c.一 デ~シタ (寺村 1968 : 9)

次に、田窪 (1984) は、「場所性」が関与している環境として5つを提示している。

a.「のところ」が付かない。

b.疑問詞「どこ」で聞ける (= 答となり得る)。

c.移動を表す動詞の Goal、Source に現れる。

d.場所の状況語句を作る「NPで」の NPの位置に現れる。

e.存在を表す文において「位置」を示す「NPに」の NPの位置に現れる。

(田窪 1984 : 96)

さらに、場所名詞を大きく次のように4つに分類している。

①「人」が関与している場所名詞

a.地名：東京、大阪、玉野市、…

b.機関：(固有名) 玉野高校、京都大学、高島屋、巨人軍、(普通名) 大学、役所、学校、デパート、警察、…

②「人」が関与していない場所名詞

a.地名：若草山、大井川、野尻湖、…

b.自然物：山、川、湖、…

c.建造物(及びその一部)：家、部屋、階段、二階、庭、…

③身体名称など

胃、腸、肝臓、口、のど、…

④相対名詞

後、前、左、右、上、下、東、西、南、北、…

田窪 (1984 : 97)

これらのテストフレームは、名詞の場所性を判断するのに役立つ。本稿では、名詞の場所性はその名詞本来が有する性質であることを認めつつも、名詞が移動表現(行く)と結び付くことによってその場所性が変化することを明らかにす

る。

### 3. 調査概要

移動表現と結び付いた名詞の場所性における言語間のずれを探るため、母語話者を対象に移動表現文の容認度判断調査を行った。日本語調査は、日本の大学に在籍する20歳前後の学部生137名、韓国語調査は、韓国の大学に在籍する20歳前後の学部生134名を対象に実施した。いづれの調査協力者も標準語を話すことができ、方言による影響はないものと判断した。

#### 3.1 分析対象の名詞

名詞はその範囲が広いため、次のように名詞の範囲を制限した。まず、場所名詞は、田窪 (1984) が挙げている場所名詞 (2.2節参照) を参考にして「地名」「機関」「自然物」「建造物(及びその一部)」「対象名詞」のカテゴリーから場所名詞を選定した<sup>4)</sup>。次に非場所名詞はテストフレームを通らない名詞から、その物の形状や大きさなどを考慮して適宜選定した。以下に、調査対象となった名詞を示す。( ) 内の韓国語は日本語に対応する訳語である。ただし、「横浜」は韓国の地名「대전(大田)」に入れ替えた。

[場所名詞] [地名] 横浜(대전) [機関] デパート(백화점), 学校(학교), 放送局(방송국), Unicef, 赤十字(적십자) [自然物] 山(산), 海(바다), 川(강), 湖(호수), 池(연못) [建造物(及びその一部)] 家(집), 部屋(방), 階段(계단), 2階(2층), 庭(정원), 公園(공원), 厨房(주방), ステージ(무대) [相対名詞] 前(앞), 横(옆), 東(동), 西(서), 上(위), 下(아래), 左(좌),

右(우)

[非場所名詞] エアコン(에어컨), カーペット(카펫), テーブル(테이블), ドア(문), 椅子(의자), 花瓶(꽃병), 脚立(사다리), 鏡(거울), 金庫(금고), 物干し台(건조대), 扇風機(선풍기), 窓(창문), 体重計(체중계), 跳び箱(뽀뜰), 電柱(전봇대), 銅像(동상), 壁(벽), 木(나무), 冷蔵庫(냉장고), 消しゴム(지우개)

### 3.2 調査構成

調査に用いた提示文は、「彼はYに行った(그는 Y에 갔다)」と「彼はYのところに行った(그는 Y(으)로 갔다)」である<sup>5)</sup>。

容認度は5段階評定<sup>6)</sup>で、インフォーマントの負担を減らすため、調査項目文を12Part(A～L)に分けて調査を実施した。各Partは全Partに共通する調査項目(共通項目)とそれぞれのPartで異なる調査項目(固有項目)からなる。各Partのインフォーマントが異なるため、各Partの共通項目の容認度を比較して容認度判断がインフォーマント間で異なっていないかを検証する。表2に各Partに提示される名詞を示す。

表2 各Partの名詞

|   |                                                                    |
|---|--------------------------------------------------------------------|
| A | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 山(산) 家(집) 前(앞) ドア(문)             |
| B | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 学校(학교) 部屋(방) 窓(창문)               |
| C | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 海(바다) 階段(계단) 横(옆) 壁(벽)           |
| D | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] デパート(백화점) 2階(2층) 下(아래) テーブル(테이블) |
| E | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 赤十字(적십자) 庭(정원) 上(위) カーペット(카펫)    |

|   |                                                                     |
|---|---------------------------------------------------------------------|
| F | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 湖(호수) 厨房(주방) 左(좌) 物干し台(건조대)       |
| G | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 公園(공원) 右(우) 冷蔵庫(냉장고)              |
| H | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 川(강) 東(동) 電柱(전봇대) 花瓶(꽃병)          |
| I | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 放送局(방송국) 木(나무) 池(연못) 西(서)         |
| J | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] Unicef 銅像(동상) 扇風機(선풍기)            |
| K | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] ステージ(무대) 脚立(사다리) 跳び箱(뽀뜰) 体重計(체중계) |
| L | [共通項目] 横浜(대전) 消しゴム(지우개)<br>[固有項目] 鏡(거울) 에어컨(에어컨) 金庫(금고) 椅子(의자)      |

## 4. 結果

### 4.1 共通項目

インフォーマントの間で判断が異ならないかを検証するために、まず、無回答のデータを除き、他のインフォーマントと著しく異なる外れ値(平均±2SDを外れるもの)を除外した。その後、TukeyのHSD法による多重比較を用いて、各Part間における共通項目の平均値の差を検定した。

その結果、場所名詞を行き先とする共通項目である日本語の「彼は横浜に行った」「彼は横浜のところに行った」、韓国語の「그는 대전에 갔다(彼は大田に行った)」「그는 대전으로 갔다(彼は大田へ行った)」および非場所名詞を行き先とする日本語の共通項目「彼は消しゴムに行った」「彼は消しゴムのところに行った」、韓国語の「그는 지우개에 갔다(彼は消しゴムに行った)」「그는 지우개로 갔

다(彼は消しゴムのところに行った)」のいずれにおいても、多重比較では5%水準で有意な差が見られなかった。

以上から、インフォーマントによるPart間の違いによる影響はないと仮定する。

## 4.2 固有項目

### 4.2.1「彼はYに行った」と「그는Y에 갔다」

容認度は平均値<sup>7)</sup>を四捨五入して得られた数値に従って5つに分類する。

以下、容認度別の割合とその詳細を図と表で示す。各図の右側に記している場所と非場所のパーセント値は、全体の場所名詞または非場所名詞に対する割合である。たとえば、図1の容認度5の場所78%は、全体の場所名詞のうち78%の場所名詞が容認度5であることを意味す

表3 彼はYに行った

|                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>容認度5</b><br>[場所] 横浜, デパート, 学校, 放送局, 赤十字, 山, 海, 川, 湖, 池, 家, 部屋, 2階, 庭, 公園, 厨房, 前, 東, 西, 下, 左 |
| <b>容認度4</b><br>[場所] Unicef, 階段, ステージ, 横, 上, 右<br>[非場所] テーブル, 金庫, 冷蔵庫                           |
| <b>容認度3</b><br>[非場所] カーペット, 物干し台, 窓, 電柱                                                        |
| <b>容認度2</b><br>[非場所] ドア, 椅子, 花瓶, 脚立, 鏡, 体重計, 跳び箱, 銅像, 壁, 木                                     |
| <b>容認度1</b><br>[非場所] エアコン, 扇風機, 消しゴム                                                           |

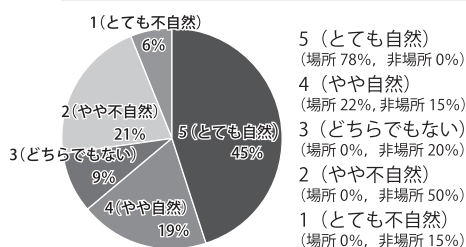


図1 彼はYに行った

る。また、円グラフの中に記しているパーセント値は場所名詞と非場所名詞を合わせた割合で、たとえば図1の容認度5の45%とは、全体の45%の名詞が容認度5であることを意味する。以下、表3と図1は日本語における容認度である。

続いて、表4と図2は韓国語の容認度である。

日韓両言語の容認度を比較してみると、まず、両言語とも容認度5は場所名

表4 그는Y에 갔다

|                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>容認度5</b><br>[場所] 대전 (横浜), 백화점 (デパート), 학교 (学校), 방송국 (放送局), 산 (山), 바다 (海), 강 (川), 호수 (湖), 연못 (池), 집 (家), 방 (部屋), 2층 (2階), 정원 (庭), 공원 (公園), 주방 (厨房)              |
| <b>容認度4</b><br>[場所] Unicef, 적십자 (赤十字), 무대 (ステージ), 앞 (前), 옆 (横)<br>[非場所] 사다리 (脚立), 금고 (金庫), 건조대 (物干し台), 뛸틀 (跳び箱), 전봇대 (電柱), 냉장고 (冷蔵庫)                             |
| <b>容認度3</b><br>[場所] 계단 (階段), 서 (西), 위 (上), 아래 (下)<br>[非場所] 카펫 (カーペット), 테이블 (テーブル), 문 (ドア), 의자 (椅子), 거울 (鏡), 선풍기 (扇風機), 창문 (窓), 체중계 (体重計), 동상 (銅像), 벽 (壁), 나무 (木) |
| <b>容認度2</b><br>[場所] 동 (東), 좌 (左), 우 (右)<br>[非場所] 에어컨 (エアコン), 꽃병 (花瓶)                                                                                             |
| <b>容認度1</b><br>[非場所] 지우개 (消しゴム)                                                                                                                                  |

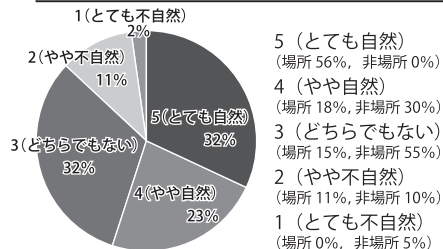


図2 그는Y에 갔다

詞のみで、容認度1は、非場所名詞のみである。しかし、名詞の詳細をみると、日本語は「前」「東」「西」「下」など位置関係を示す相対名詞はすべて容認度4以上であるが、韓国語は容認度4から2までばらついている。

また、両言語とも容認度4以下に非場所名詞が含まれるが、その割合をみると、日本語は容認度4から3までの割合が35%、2から1までの割合が65%である。一方、韓国語は容認度4から3までの割合が85%、2から1までの割合が15%である。すなわち、非場所名詞に対する許容範囲が、両言語間でずれており、韓国語の方が日本語より許容的であることが確認できる。

表5 彼はYのところに行った

|                                                                |
|----------------------------------------------------------------|
| 容認度5                                                           |
| [非場所] テーブル, ドア, 椅子, 鏡, 金庫, 木                                   |
| 容認度4                                                           |
| [場所] 池, 階段                                                     |
| [非場所] エアコン, カーペット, 花瓶, 物干し台, 扇風機, 窓, 体重計, 電柱, 銅像, 壁            |
| 容認度3                                                           |
| [場所] デパート, 放送局, Unicef, 赤十字, 山, 川, 湖, 家, 2階, 庭, 公園, ステージ, 前, 下 |
| [非場所] 脚立, 跳び箱, 冷蔵庫, 消しゴム                                       |
| 容認度2                                                           |
| [場所] 横浜, 学校, 海, 部屋, 厨房, 横, 東, 西, 上, 左, 右                       |
| 容認度1                                                           |
| —                                                              |

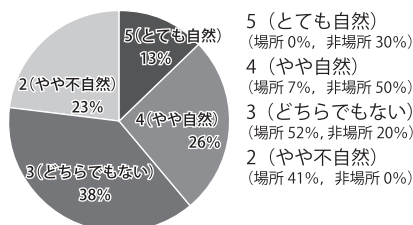


図3 彼はYのところに行った

#### 4.2.2「彼はYのところに行った」と「 그는Y(으)로 갔다」

日本語における場所化の移動表現とそれに対応する韓国語の移動表現を比較してみる。まず、表5と図3は日本語の容認度である。

続いて、表6と図4は韓国語の容認度である。

両言語の容認度を比較してみると、日本語は非場所名詞の80%が容認度4以上

表6 그는Y(으)로 갔다

|                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 容認度5                                                                                                                                                                                     |
| [場所] [地名] 대전 (横濱), 백화점 (デパート), 학교 (学校), 방송국 (放送局), 산 (山), 바다 (海), 강 (川), 호수 (湖), 연못 (池), 집 (家), 방 (部屋), 계단 (階段), 2층 (2階), 정원 (庭), 공원 (公園), 무대 (ステージ), 앞 (前), 옆 (横), 위 (上), 아래 (下), 우 (右) |
| [非場所] 문 (ドア), 건조대 (物干し台)                                                                                                                                                                 |
| 容認度4                                                                                                                                                                                     |
| [場所] Unicef, 적십자 (赤十字), 동 (東), 서 (西), 좌 (左)                                                                                                                                              |
| [非場所] 카펫 (カーペット), 테이블 (テーブル), 사다리 (脚立), 금고 (金庫), 선풍기 (扇風機), 창문 (窓), 체중계 (体重計), 펌프 (跳び箱), 전봇대 (電柱), 동상 (銅像), 벽 (壁), 나무 (木), 냉장고 (冷蔵庫)                                                     |
| 容認度3                                                                                                                                                                                     |
| [場所] 주방 (厨房)                                                                                                                                                                             |
| [非場所] 의자 (椅子), 꽃병 (花瓶), 거울 (鏡)                                                                                                                                                           |
| 容認度2                                                                                                                                                                                     |
| [非場所] 에어컨 (エアコン), 지우개 (消しゴム)                                                                                                                                                             |
| 容認度1                                                                                                                                                                                     |
| —                                                                                                                                                                                        |

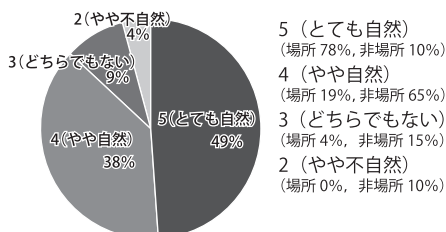


図4 그는Y(으)로 갔다



であり、ほぼすべての場所名詞が3以下である。一方、韓国語は場所名詞の97%と非場所名詞の75%が容認度4以上である。この結果から、日本語において場所名詞をさらに場所化することはできないというこれまでの指摘が裏付けられた。

しかし、場所名詞の「階段」と「池」は他の場所名詞と異なって、移動動詞と直接結び付く場合と「ところ」が後続する場合でともに容認度4以上であった。これらの名詞が「ところ」と結びつくことが可能なのは、他の場所名詞に比べてその名詞が持つ場所が小さく、「ところ」で示される、それらの周辺に人やものが位置することができるためであると考えられる。詳細は申(2016a)を参照のこと<sup>8)</sup>。

また、「テーブル」「金庫」「冷蔵庫」は非場所名詞でありながら、「ところ」を伴った場所化において容認度3以上で、移動動詞と直接結び付く場合も容認度が4で、高い。

このように場所化しなくてもよい非場所名詞もある理由は、慣用的に使われる表現であることと、場所の意味としても解釈できるためであると考えられる。詳細は申(2016b)を参照のこと<sup>9)</sup>。

続いて、韓国語は名詞の場所性を問わずに「그는 Y(으)로 갔다」と結び付けられることが確認できた。日本語の場合、「ところ」は指示範囲をその前後、周辺にまで拡大する(池上2000)。そのため、一部の名詞を除いて非場所名詞だけが「ところ」と結び付く。しかし、韓国語の「(으)로」は方向先として捉えるため、場所性に関係なく名詞と結び付くと考えられる。

## 5. 考察

まず、相対名詞に対する容認度のずれについて考えたい。今回の調査結果から、日本語の相対名詞は「彼はYに行った」では容認度4以上であり、場所化した「彼はYのところに行った」では容認度が3以下である。

しかし、韓国語の相対名詞は「그는 Y에 갔다」において容認度4から2までの間に分布している。容認度が一定しておらず、相対名詞の間で容認度に差が生じる理由は、相対名詞が表す距離の範囲の差が影響しているためであると考えられる。奥津(1974)は、「前」「後」「右」「左」は、比較的近距离の地点を示すのに用いられ、視覚的認識の範囲内だけに適用される。しかし、「東」「西」「南」「北」はそれを超えたより広い範囲について使われると指摘している。以下、図5に韓国語の相対名詞の容認度を示す。

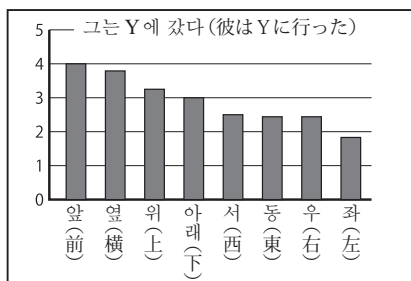


図5 相対名詞の容認度 (韓国語)

図5の結果を見ると、「우 (右)」と「좌 (左)」を除いて、「앞 (前)」「옆 (横)」「위 (上)」など比較的近距离の地点を示すのに用いられる相対名詞が、視覚的認識の範囲を超えたより広い範囲について使われる「동 (東)」と「서 (西)」に比べて容認度の値が高いことが確認できる。

このように、比較的近距离の地点を示す相対名詞の容認度が高い理由は、近距离かつ視覚的認識の範囲内であることは、行き先が明らかであるため、「에」と結び付きやすいが、「동(東)」と「서(西)」などは、視覚的認識の範囲を超えているため、行き先として不明確であるためであろう。したがって、(10)のように、「에」より方向を示す「(으)로」と結び付きやすいこともその理由の一つであると考え

(10) a.\* 그는 동에 갔다

b. 그는 동으로 갔다

しかし、近距离の地点を示す「우(右)」と「좌(左)」の容認度が「동(東)」と「서(西)」と同程度に低い理由は、「우(右)」と「좌(左)」が他の相対名詞より「(으)로」と結び付きやすいためであろう。日本語の「右」と「左」に対応する韓国語では、「오른쪽(右側)」「왼쪽(左側)」または「우(右)」「좌(左)」がある。これらは使用範囲が異なって、「오른쪽(右側)」「왼쪽(左側)」は、「에」「(으)로」両方結び付きやすいが、「우(右)」「좌(左)」は「(으)로」と結び付きやすい。したがって、「우(右)」と「좌(左)」が「에」と結び付く容認度が「동(東)」と「서(西)」と同程度に低かったと考える。

以上により、日本語は、相対名詞が持つ視覚的認識の範囲に関わらずに場所名詞として捉えるが、韓国語は、相対名詞が持つ視覚的認識の範囲によって、容認度が異なることが分かった。

続いて、非場所名詞に対して韓国語の方が日本語より許容的である理由について考えたい。両言語とも名詞の場所性によって移動表現の形式が異なることか

ら、名詞の場所性に注目していることは間違いない。しかし、日本語は名詞の場所性それだけに注目している一方、韓国語は有情であるかどうかをより重視しているため、日本語より韓国語の方が相対的に非場所名詞に対して許容的であると考え。ここでいう有情とは、人や動物など、自ら動作を行うことができるものを指す。

(11)は場所名詞「学校」「학교」を、(12)は非場所名詞「花瓶」「꽃병」を、(13)は非場所名詞「先生」「선생님」をそれぞれ行き先とする移動表現で、bはaに対応する韓国語の移動表現である。

(11) a. 彼は学校に行った。

b. 그는 학교에 갔다.

(12) a. 彼は花瓶のところに行った。

b. 그는 꽃병으로 갔다.

(13) a. 彼は先生のところに行った。

b. 그는 선생님께 갔다.

このように、日本語は場所名詞以外の名詞に対して一律的に「ところ」を入れて場所化する。しかし、韓国語は、非場所名詞において[－有情]の場合「(으)로」、[＋有情]の場合「께」<sup>10)</sup>に入れ替える。まとめると、図6のようになる。

|             |   |                                       |
|-------------|---|---------------------------------------|
| 日<br>本<br>語 | { | [＋場所性] YにV                            |
|             |   | [－場所性] YのところにV                        |
| 韓<br>国<br>語 | { | [＋有情] Y{에 게/한테/께}V                    |
|             |   | [－有情] { [＋場所性] Y에 V<br>[－場所性] Y(으)로 V |

図6 移動表現の要因

韓国語で、[土場所性]より先に[土有情]を示す理由は、名詞の[土場所性]より[土有情]をより重視していることを表している。このように、韓国語が有情



をより重視することは、「에게 (に)」「한테 (に)」「께 (に)」のように人名詞に対して助詞が細分化していることも傍証となる。

## 6. まとめと今後の課題

本研究では、容認度判断調査を通して、名詞の場所性における両言語の共通点と相違点を探った。

その結果、両言語とも行き先の移動を表す場合、容認度が高い名詞は場所名詞で、容認度が低い名詞は非場所名詞であることが確認できた。しかし、相対名詞を行き先とする移動表現の場合、日本語では容認度が高いが、韓国語では、その容認度にばらつきがみられた。その理由は、日本語と異なり、韓国語は相対名詞が表す距離の範囲によって、場所名詞として捉えやすい名詞と捉えにくい名詞があるためである。近距離であれば、行き先となる位置が比較的明確になるが、視覚的認識の範囲を超えた遠距離では、着点となる位置がばやけてしまうため、より方向的な意味を強く持つ。したがって、「앞 (前)」「옆 (横)」「위 (上)」など比較的近距離の地点を示すのに用いられる相対名詞が視覚的認識の範囲を超えている「동 (東)」と「서 (西)」より容認度が高い結果を得たと考える。

最後に、両言語とも名詞の場所性によって移動表現の形式が異なることから、場所名詞と非場所名詞を区別するが、非場所名詞において韓国語の方が日本語より許容的であることが分かった。その理由は、日本語は名詞の場所性のみに注目しているが、韓国語は名詞の場所性よりも、有情であるかどうかにより重視さ

れるため、相対的に名詞の場所性の区別は日本語より緩やかであることが分かった。

これまでの研究では、言語間の移動表現における形式的な違いの指摘に留まっており、名詞の場所性については名詞それぞれ自身が持つ場所性に焦点を当てて議論されてきた。しかし、本稿は、移動表現の中で名詞の場所性を捉えることによって、名詞の場所性に対する理解を深めることができたと考える。また、言語間のずれを探ることによって、名詞の場所性に対する容認度の度合いや観点も異なることが理解できたと考える。

今後は、名詞が場所性を獲得する条件を明らかにしていきたい。場所名詞と非場所名詞の区別があるということから、どのような要因が満たされる場合、場所名詞として捉えやすいのかを名詞それぞれ自身が持つ特徴を含めて、共起する移動表現の構成要素と結び付けて検討したい。

### 注

- 1) 語幹が子音で終わる場合「으로」、母音で終わる場合「로」を用いる。
- 2) 「한테」は口語体の与格で、「에게」と同様に使われる(田窪1984)。なお、「에게」と「한테」は行き先が人や動物である場合に使われる。
- 3) 「に」は着点を表し、「へ」は方向を表すとも言われるが、少なくとも「に行く」と「へ行く」は置き換え可能なので、本稿では「に行く」についてのみ論じる。
- 4) 「身体名称」は行き先として相応しくないため除外する。
- 5) 森山(1988)は、場所性とは名詞が持つ絶対的な性質ではなく、相対的なも

のであり、「きのう私に{\*彼／手紙}が来た」のように、人名詞「彼」と共起する人名詞「私」には場所性が認められないが、「手紙」のような情動的なものと共起する人名詞「私」は、人名詞であっても場所性が認められると指摘している。そこで、本調査は、移動体が人名詞か否かによる影響を避けるため、すべて人名詞(彼)である。

- 6) 5は「とても自然」、4は「やや自然」、3は「どちらでもない」、2は「やや不自然」、1は「とても不自然」で、値が高いほど、容認度が高いことを意味する。なお、3「どちらでもない」は、容認度が5~1の中間に位置することを意味する。
- 7) 容認度の平均値は、提示文に対する5つの選択肢から、該当する人数をカウントした後、各選択肢に割り当てられた値に基づいて求める。
- 8) 申(2016a)は、場所名詞のうち、「ところ」に対する振る舞いが異なることに着目し、相違を引き起こす要因について論じた。
- 9) 申(2016b)は、非場所名詞にも関わらず、結びつく移動動詞によって、容認度が異なる理由について論じた。
- 10) 「께」は「에게」と「한테」の尊敬語である。

#### 参考文献

- 池上嘉彦(2000)『「日本語論」への招待』講談社 pp.185-231
- 奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論』大修館書店
- 申貞恩(2016a)「場所性を持つ名詞と形式名詞「ところ」について—容認度判

断調査の結果から—」『日語日文学研究』第97輯No1 pp.101-120

申貞恩(2016b)「名詞の場所性と「行く」「着く」「向かう」の関係性—容認度判断調査の結果を中心に—」『日本語学研究』第48輯 pp.33-48

全成龍(2007)「한일간에 있어서의「着点명사+이동동사」의 고찰」『日本文化学報』第33輯 5月 pp.57-72

薛根洙(1997)「動詞連語論の研究—移動動詞の日韓比較研究を中心に—」大東文化大学 博士号論文

田窪行則(1984)「現代日本語の「場所」を表す名詞類について」『日本語・日本文化』第12号 pp.89-117

寺村秀夫(1968)「日本語名詞の下位分類」『日本語教育』12号 pp.42-57.

森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院

#### 付記

本稿は、第137回表現学会東京例会(平成28年4月23日)にて発表したものを改題・改稿したものです。ご質問ご助言下さった方々に記して心より深く感謝申し上げます。また、査読者の方々からいただいたコメントに篤く御礼申し上げます。

(筑波大学大学院生)